

第13回 長安ロダム改造事業費等監理委員会

【情報提供】 その他（治水協定に関する情報提供等）

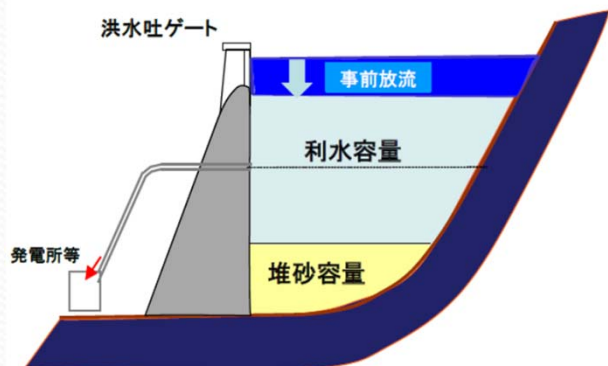
令和2年8月

那賀川河川事務所

1. 利水ダムの治水協定

- 令和元年東日本台風(台風第19号)など近年頻発する洪水被害に対応するため、**既存ダムの有効貯水容量を洪水調節に最大限活用**できるよう全国で取組みを実施。
- 利水ダムは、台風や大雨が降ることが見込まれる場合に事前に利水容量を空け、洪水調節に使用。
- 河川管理者は、台風や大雨に関する全般気象情報が発表されたとき等に利水ダム管理者に事前放流を実施する態勢に入るよう伝達し、利水ダム管理者は事前放流を実施するかを判断。
- 那賀川で利水容量を洪水調節に利用できるダムは、**長安ロダム(国土交通省)、小見野々ダム(四国電力)、大美谷ダム(四国電力)、川ロダム(企業局)の4ダム**。
- 利水4ダムの利水容量を洪水調節に全量利用できれば、**長安ロダム洪水調節容量(1,200万m³)と併せて約2.2倍(2,585万m³)の洪水調節可能容量が確保でき**、那賀川の洪水被害軽減に期待される。
- 利水容量を洪水調節に利用できるよう、**令和2年5月27日に「那賀川水系治水協定」締結**。

利水ダムの事前放流のイメージ

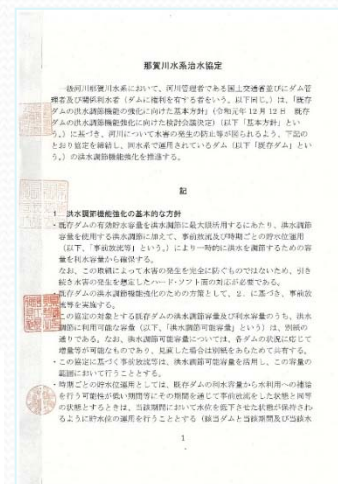


利水ダムの洪水調整可能容量

| ダム | 洪水調節容量 (万 m ³) | 洪水調節可能容量* (万 m ³) | 基準降雨量 (mm) |
|--------|-------------------------------|----------------------------------|---------------|
| 長安ロダム | 1,200 | 642 | 307 |
| 小見野々ダム | — | 624 | 184 |
| 大美谷ダム | — | 27 | 184 |
| 川ロダム | — | 92 | 307 |
| 追立ダム | — | 0 | — |

※洪水調節可能容量とは、3日間で事前放流により確保できる最大容量
 ※洪水調節可能容量には、水利用への補給を行う可能性が低い期間等において水位を低下させた状態とする貯水池運用を行うことにより確保可能な容量を含む
 ※基準降雨量とは、事前放流を開始するかどうかを判断するダム上流予測降雨量

那賀川水系治水協定



※4者(国土交通省 那賀川河川事務所長、企業局長
 職務代理者 企業局副局長、徳島県 県土整備部長
 、四国電力(株) 再生可能エネルギー部長)で締結

2.長安ロダム施設改造後のダムの運用



【新設ゲート】

- 令和元年6月10日より試験運用開始
- 令和元年6月27日に初運用
- **令和2年6月15日より本格運用開始**

【令和元年度の長安ロダム操作】

- ゲート放流回数：20回
- 予備放流回数：13回
- 1回あたりのゲート放流最長日数：8日
- ゲート放流日数：63日間
- 1回あたりのゲート放流平均日数：3.2日

【選択取水設備】

- **令和2年6月15日より本格運用開始**
- 令和2年8月末上屋完成（完了）

令和元年8月16日（台風10号による放流）